

国史跡「仙台城跡」 災害復旧工事情報

No.2 平成25年1月7日

【①大手門北側土塀・石垣】

現在、粘土と瓦を交互に積んで土塀の復旧作業を行っています。



【②中門石垣】

中門の北側石垣は、「根石」と呼ばれる基礎部分を残して解体作業を完了しました。まもなく積み直しが始まります。



中門の南側石垣は、石垣の積み直しが12月末に完了し、震災前の状態に戻りました。



仙台城跡周辺略図

【③本丸北西石垣】

崩落した石材の撤去と変形した石垣の解体が行われています。作業は、復旧の際の資料とするため、崩落地点や石垣構築当時の技法を記録しながら進めています。



本丸北西石垣の解体の際に、「^{げんぶん}元文」と彫られた石材が発見されました。元文元年（1736）に仙台地方で大きな地震があり、仙台城の石垣が崩れたという記録があるので、この石材はその復旧工事の際に年号を刻んで積んだ石と推察されます。時代を越えて復旧に係った人々の思いが伝わってきます。

